発行日　平成28年6月15日
発行者
富山・ミラノデザイン交流倶楽部
高岡市オフィスパーク 5
公益社団法人富山県デザイン協会内
TEL.0766-63-7140

執筆　池田美雪 ＊ミラノ在住

第55回ミラノ・サローネ国際家具見本市

「クオリティーという名の見本市 」

4月12日から17日までの6日間、第55回ミラノ・サローネ国際家具見本市（以下、ミラノ・サローネ）が、ロー国際見本市会場において総面積20万7000平米の敷地を使い、2407社およびサテリテ出展若手デザイナー650名の展示により盛大に開催された。

開催に先駆けて2月に開かれた記者発表では、イタリア家具工業連盟の会長とミラノ・サローネの運営会社である株式会社FLA　Eventiの社長を兼任するRoberto Snaideroは次のように語った。「第55回目となる今年、ミラノ・サローネは国際色豊かな見本市となる。160カ国からの来場者が業界関係者の70%を占め、また、国内外トップブランドが、併催イベントにおいて、それぞれ生活文化を交えて展示する。国際化そしてイノベーションが、今年一番注目されるテーマである。事実、ミラノ・サローネ出展社の輸出高は63%に至り、その内の67%の企業は、過去3年間に機械や備品、ソフトウェア、リサーチ、新商品開発に投資している。」と、回を重ねるごとに国際化が進み、イタリア製家具の輸出振興の一助を担うミラノ・サローネの実績を強調した。

この事実を裏付けるように、Carlo　Calenda経済開発副大臣は、「ミラノ・サローネは、イタリア国内の見本市の中でも最も重要な見本市だ。全てをライン・アップするこの家具見本市で、クオリティーの高い革新的な商品を海外マーケットへ自信を持って紹介することができる。ミラノ・サローネは、当初よりICE(イタリア貿易振興会)が推進を強化する見本市として名を掲げてきたが、2015年の輸出の割合が6%に近づいたことが示すように、家具業界は近年その勢いを取り戻してきている。また、政府の継続的な支援により、国内でも数字が伸びている。安定法改正により、ある条件において、若い世代に対し、家具購入時の税額控除が導入され、また、ICE協力や経済発展省『メイド・イン・イタリー特別計画』から支援を受けることで、イタリア家具の海外販売促進を強化している。」と国の経済政策を説明。ミラノ市Giuliano　Pisapia市長は、「55周年を迎える今年は、ミラノ市にとっても特別な年となる。20年振りにミラノ・トリエンナーレ国際博覧会が幕を開け、『Design After Design展』が開催される。この春はこの2大イベント開催で、ミラノはまた世界中から注目を受けるだろう。4月12日から17日まで、ミラノ・サローネとフオーリ・サローネが、ミラノ市内の広場や通りを埋め尽くし、デザイン関係者や観光客など多くの人を巻き込むお祭りの一週間となるだろう。」と、デザインのメッカであるミラノ・トリエンナーレの重要性に触れながら、デザインの街ミラノのアイデンティティをアピールした。

撮影• Luciano Pascali

マーチャンダイジングの一環として販売される、Saloneのロゴ入りコーヒーメーカーとカップ。

ミラノ・サローネ開催前に行なわれた記者会見の様子。中央左Snaidero会長とその左にミラノ市長Pisapia。

撮影• Luciano Pascali

12日、開幕のテープカットを行なう首脳陣たち。

第21回ミラノ・トリエンナーレ国際博覧会のオープニングセレモニーが開催された4月1日のエントランス。

本年度より、毎年開催されるSalone Internazionale del Mobile（家具）、Salone Internazionale del Complemento d'Arredo（インテリア小物）、SaloneSatelliteに加え、ラグジュアリー・ブランドを集めた新部門として「xLux(エキストラ・ラグジュアリーの意)」が新設された。このカテゴリーは、これまでの来場者の要望に応えようと、従来クラシック部門やデザイン部門など様々なパビリオンに点在していたブランドをテーマで集約し、ファッションブランドのフェンディ、フェレ、ロベルト・カヴァッリ、ベルサーチェ、ウンガロといったイタリアン・ファッション・ブランドのホーム・ブランドを始め、トリーノ・ランボルギーニや海外ブランドも含めたゴージャスなエリアとしてスタートを切った。

偶数年の今年の隔年イベントは、まずEuro Cucina（キッチン関連）。2万3千平米という巨大なスペースに120社が出展。消費者から常々求められる、より優れた機能を備えた高品質なキッチンが一堂に集まった。それに付随し開催されたFTK - Technology For the Kitchenでは、1万2千平米の敷地内に、40社の開発による電化製品やレンジフードが一体化したハイテク・キッチンなどが発表され、さながら夢のキッチンが一堂に集まったスペースとなった。これらキッチン関連の展示では、新作キッチンを使った有名シャフのクッキング・パフォーマンスが行なわれ、来場者が上部に設置された大型スクリーンでその手際を眺める様子が多く見られた。Salone Internazionale del Bagno（バスルーム関連）では、1万9千平米のスペース内に、現代に求められる快適なホーム・バス空間が多角的に提案された。

今年の来場者は業界関係者・一般来場者合わせて37万2151人、同様の隔年開催見本市が開催された2年前に比べ4%増え、そのうち海外からの業界関係者は全体の67%を占め、出展企業からも非常に良い手応えを感じたと好評であった。平日は業界関係者に入場が限られるが、土日は一般客へも解放される展示会場。今年は史上初めて一般客来場日の来場者数が4万人を超え、デザインへの関心が広く裾野へ広がったことを証明した。

開幕初日の様子を2分にまとめたビデオは、こちらからご覧下さい。

https://youtu.be/kePS1tepz4g

撮影• Alessandro Russotti

今年新設されたxLuxスペースに展示されたBoffi社の重厚な空間演出。

撮影• Alessandro Russotti

同じくxLuxスペースで繰り広げられたVersaceの華やかな世界。

Euro Cucinaでは、そこここで、新製品のすばらしさをアピールするクッキング・パフォーマンスが行なわれた。

サローネ・サテリテ「New Materials > New Design」

第19回目を迎えるサローネ・サテリテの今年のテーマは、「New Materials > New Design」。

サテリテがスタートしてからの19年間、常にキュレターを努めて来たグリフィン女史は、若手デザイナーのいわば母親的存在として、これまで彼らの成長を温かく見守り応援してきた。19年も続いてきたサテリテの成功は、総勢1万人を超える参加デザイナーたちのセレクションに共に関わってきた多くの関係者のおかげとし、また「新素材が革新的なデザインを表現する」という今回のテーマについてこう語る。「世界が急速に変化する中、サテリテは常に素材の科学・技術の発展の模索に歩調を合わせ、これらの変化をいち早く紹介できる場と成ることを追求してきた。残念ながら、若者たちはこれらの新しい素材に関しての知識を充分に持ち合わせていないように感じる。今年このテーマが選ばれたのは、素材が生み出され製造される過程が、環境や我々の地球の未来にインパクトを与えるという事実が今、非常に重要であるからだ。」

撮影• Andrea Mariani

サテリテのエントランスに表示された木製のタイトル。

撮影• Andrea Mariani

展示ブースを上階から見た様子。

サテリテ会場内部では、今年のテーマを反映し、最高水準を誇るヨーロッパの6つのマテリアル・リサーチセンターが様々な最新素材のサンプルを公開した。そして同時に、これまでのクラッシックな素材 － 木材・プラスチック・ガラス・メタル・布・大理石 － に対するオマージュとして、デザイナーとミラノ・サローネ参加企業のコラボレーションによるインスタレーションTOTEM6点が展示された。

第7回サローネ・サテリテ・アワードの授賞式は、4月13日イタリアRenzi首相を迎え、華やかな雰囲気の中で行なわれた。

優秀賞を獲得したのは、ドイツのデザイナーPhilipp Beisheim。消費社会への答えとしてデザインされたテーブルInflatable Sidetableは、家具の廃材から作られた天板とゴムボートに使われるゴム引きの帆布を用い、台の部分に空気を入れて膨らませることでテーブルとなる工夫が施されており、輸送や保存時には折り畳むことでコンパクトなサイズになる点が評価された。

2位は、日本人ユニットBouillonが制作したスツールWarm Stool。テラコッタで型取られた座に温かいお湯を注ぎ、座り心地を良くするデザイン。伝統的な素材テラコッタと原始的な手法を現代的にアレンジしたことが評価された。

3位、Studio NitoがデザインしたBobina Chairは、糸巻きからインスピレーションを得た家具のシリーズ。

特別賞は、中国のデザインスタジオFrank Chouがデザインした、生地を変更できるシェルフ付きのパーティションPing Scrren。その他、日本のデザインスタジオImagineがデザインした廃材の絹を使用したスツールKibitis、オランダのデザイナーKlaas KuikenとLovink社がコラボレーションしたストーブと時計のシリーズが特別賞を獲得した。

サローネ・サテリテの様子をこちらのビデオからご覧下さい。

https://youtu.be/4Q1OFZZ9L6Q

撮影• Andrea Mariani

マテリアル・リサーチセンターから提供された新素材の数々を閲覧する来場者たち。

撮影• Andrea Mariani

TOTEMの一つ。ガラスとアルミのリサイクル素材を使って製造されるemeco社の椅子の展示。

撮影• Andrea Mariani

Kartell社が制作したTOTEMのインスタレーション。

世界各国から選ばれた650名のデザイナーとデザイン学校による展示は、例年以上に完成度が高く、今年際立った傾向としては、自然素材や動物のモチーフなどを新しい手法で組み入れたデザインが多く見られたこと。

個人的に興味をそそられたのは、ベルギーのデザイナーValentin van ravestynによる椅子のシリーズ。薄い木の板にレーザーカットで細かな装飾を施すことで、硬い木の板が柔らかいレザーのように変化し、また陰影が生まれた表面は、カットの仕方によってその表情が大きく変わる。もう1つ面白いと感じたブースは、自然の状態に近い木材を透き通る合成樹脂に封じ込め、テーブルなどに活用したイタリア人のユニットarcarolの作品群。樹木が生息する土地の空気も感じることができる、とてもインパクトのあるデザインである。また、スラブ文化を現代デザインで表現することを目的に設立されたSVAROG Furnitureは、レーザー・カットされた合板を立体的に組み立てて具象的な形を家具に応用。最後に、ロシアのデザイナーAlice MinkinaによるSaganoシリーズも素材のユニークな活用の発想で、来場者の興味をかき立てていた。彼女のデザインする家具シリーズは、くるくるに巻かれた竹の薄い板から成る円盤を、様々な立錐形に変化させ、独特な滑らかな表面を持つ、椅子・テーブル・ランプシェードに応用する手法である。

撮影• Andrea Mariani

イタリア・レンツィ首相（中央左）を迎えて行なわれた、サテリテ・アワードの授賞式の様子。グリフィン女史（左）が指揮をとる。

サテリテ・アワード参加作品を一堂に展示する一角。

撮影• Andrea Mariani

サテリテ・アワード 1 位を獲得したドイツ人デザイナーPhilipp Beisheimと受賞作品「Inflatable Sidetable」。

リンク
www.philippbeisheim.com

撮影• Andrea Mariani

2位に輝いた、日本人ユニットBouillonが制作したスツール「Warm Stool」。

撮影• Andrea Mariani

3位は、ドイツデザインスタジオStudio Nitoが制作した家具シリーズ「Bobina」。

リンク
www.studionito.com

自然のエネルギーを家具に取り込んだ、arcarolの作品。

リンク
www.alcarol.com

竹の薄板をスパイラルに重ねることで立体化し、家具やランプシェードに応用した Saganoシリーズ。

薄板にレーザーカットで切り込みを施すことにより表情を持たせた Valentin van ravestynデザインの家具シリーズ。

リンク
valentin-vanravestyn.com

特別賞を獲得したオランダのデザイナーKlaas Kuiken。Lovink社とコラボレーションしたストーブと時計のシリーズ。

合板を具象的な形に組み立てたシンプルでインパクトのあるSVAROG Furnitureの作品。

メイキング・ビデオのリンク
https://youtu.be/xFchtVl4sL0

時を超えたイタリアン・クラシック - 「Before Design Classic」展

本会場のパビリオン15号館では、特別展「Before Design Classic」展が開催された。

このエキシビジョンは、デザインが生まれる以前の「クラシック様式」へオマージュを捧げることをコンセプトに企画された。ミラノを拠点に活動するStudio Ciarmoli Quedaのアート・ディレクションにより、 クラシック・テイスト、言い換えれば時間を超越していつの時代でもコンテンポラリーであり続けるメイド・イン・イタリーの「住まい方」を、創造力豊かに時代ごとの様式をなぞりながら展開。展示の一部屋では、劇場インスタレーションとして、現代イタリア映画監督の中でも評価が高いMatteo Garroneの詩的で力強い視点による短編「Before Design Classic – 未来の伝統」が映写された。写真家Nicolai Bruelのサポートにより、夢と想像をかき立てる画像と未来を想像させる目線との狭間を揺れながら、いかなる文化の壁も越えたクラシックの概念を表現した作品である。

オープニングの模様は、こちらのビデオでどうぞご覧下さい。

https://youtu.be/kLnz3133Z1c

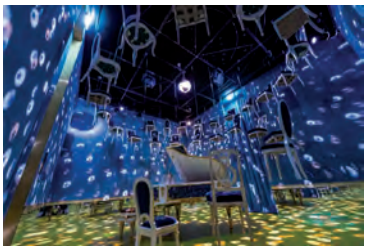
詩情豊かなMatteo Garrone監督のビデオはこちらからご覧頂けます。

https://youtu.be/I3FPPJ3e4YI

55年目の節目を迎えた今年のミラノ・サローネは、デザインの持つ求心力がイタリア経済と一般の生活へ更に刺激を与えうる未来に向けての再スタートを切った。

ミラノ・デザイン・ウィーク期間中に開催された関連イベントの詳細は、次号でお伝えします。

撮影• Alessandro Russotti
Matteo Garrone監督の短編を上映する劇場インスタレーション。



撮影• Alessandro Russotti
「音楽のサロン」。

撮影• Alessandro Russotti
「リバティ様式のサロン」。

執筆者　略歴

池田美雪　インテリアデザイナー

武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒
Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒
1994年よりミラノ在住
主に個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わる
設計外に携わったプロジェクトとして
”do it jubunde”展（無印良品、ニコレッタ・ブランヅィとのコラボレーション）を企画ならび実現
”Soundesign”展（Marangoniファッションスクール主催）にて弦楽器”Caravantar”を発表
写真雑誌“ZOOM”日本版のコーディネート、翻訳　など
“TuPlay”展にてグラス楽器”FASOLA”を発表
「Bicarbonato : mille usi per te e la tua casa」執筆　（FAG出版社より）
（イタリアの生活に密着した重曹の活用方法を書き綴った本）
“B.A.C.“展（City Art ギャラリー）にて、インスタレーション”Ma.Ma.Ma” を発表
“Made in Bovisa“（Bodio小学校の子供たちとのプロジェクト）を起案、コーディネイト
第21回ミラノ・トリエンナーレ国際博覧会エキシビジョン”W.Women in Italian Design”に作品出展

クリエイティブ・コンサルティング会社（デジタルゲーム、ウェブサイト、グラフィックデザイン）の共同経営者として活動
デザイン・ アートに関するコーディネイト、翻訳および通訳
日本とイタリアの文化交流を推進するデザイン・プロジェクト”stu-art”コーディネイター